

みる つくる がた

千葉県立美術館報

VOL. 4 NO. 4

昭和53年2月10日発行

編集・発行人 市原 正夫

〒280

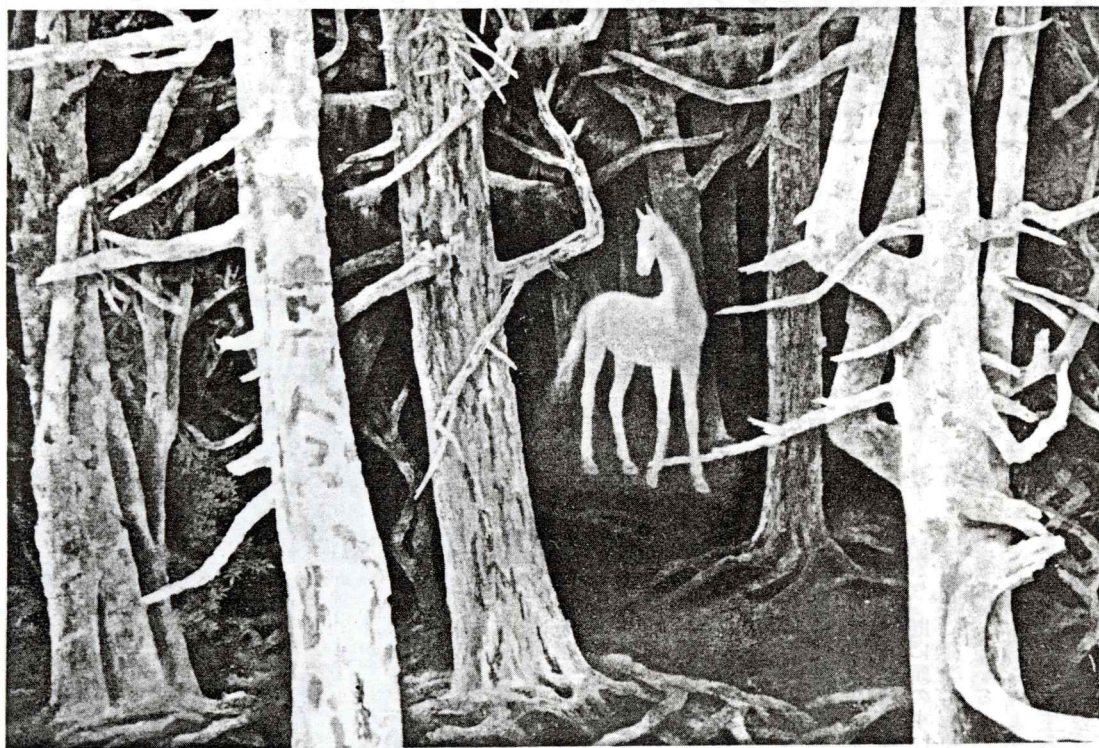
千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311(代表)

特集

東山魁夷展

—「残照」から唐招提寺障壁画まで—



東山魁夷 「白馬の森」

観潮台

「残照」の原風景

寒い北風の吹く午後、私は鹿野山の九十九谷展望台の天崖に立った。手に東山魁夷著「風景との対話」を持ち、東山先生のデビュー作「残照」の原風景を見ようと、昭和二十一年の冬、先生がリュックを背負い、画板を抱えて歩いた山路を、きびしかった戦後をしのびながら登った。

こうして「冬枯れの山肌は、沈鬱な茶褐色の、それ自体は捉え難い色であるが、折からの夕陽に彩られて、明るい部分は淡紅色に、影は青紫色にと、明暗の微妙な階調を織りまぜて静かに深く息づいている。——」と回想している原風景の九十九谷に直面した。先生はここで充実を感じたと書いているが、おそらく戦後の新生への期待の心境と、九十九谷の印象が呼応したからで、こうして、雄大な山並のはてに夕陽の輝きを残した、心象風景「残照」が生まれたと実感した。

昭和二十二年の日展で特選になり、巨匠へのあゆみが始まったのだが、とにかく、私は名作の舞台になった原風景に接し、多くの人に探訪をすすめたくなった。(高橋在久)

東山魁夷先生は、現代日本画壇の最高指導者として国際的にも注目されています。千葉県立美術館の開館以来、先生の作品展を催すよう、各方面から強い要望がなされていきました。

このたび先生をはじめ関係者の御協力を得て、本県と最もかわり合いの深い「残照」をはじめ日本各地・滞欧の作品や最近の「夕静寂」「桂林月夜」等約六十点の代表作品を始め、下絵、スケッチ、著書等の資料をも合せて広く展観することとなりました。

今回は東山先生にとりましては、千葉県に在住すること三十年になるということもあり、千葉県立美術館で開催することについて大変な熱の入れかたで、私も職員もしばしば御自宅を訪問して打合せをすすめて参りました。特に「美との巡りあい」と題し、三月十八日には千葉市民会館を会場として記念講演を開催す

東山魁夷展を迎えて

館長 市原 正夫

する運びとなりました。東山芸術のすべてを知るうえからも、日本画を理解するためにも是非とも御高覧ならびに御聴講下さい。私たちは、この展覧会が近づくにつれて、その反響

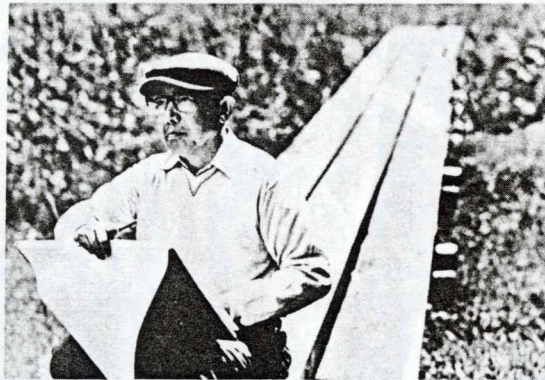
の大きいことを、ひしひしと感じています。昨年六月東京・渋谷のデパートで開催の折には、入館者が延々と長蛇の列となり、入場まで三時間近くも待つという状況でした。今回は会期も学校の学年末休業の時期にもなり、しかも約一カ月と比較的長く、かつ毎週金曜日には午後七時までの夜間開館をする等、皆様にこゆると御鑑賞いただけるよう十分な配慮をいたしております。

時あたかも早春の好季節です。美術に親しみ、日本画の真髄にふれ、豊かな心を醸成する好機会として、ひとりでも多くの方々の御来館を、職員一同心からお待ちしております。

旅と作品

「晩照」を中心として

東山魁夷



市川市・大町公園 氏 東山魁夷 中 生 写

し、いまその本を書いたとしても、私はやはり同じ言葉で書き出すだろう。十年後でも同じかもしれない。

風景ばかり描いている私にとって、旅は当然のことであるが、旅に出る瞬間から絵になる場所を探すという心を棄てるのが、長年の習慣になっている。ことさらに棄てると意識しないでも、いつもそんな心の状態になっていると、自分では思っている。

もっとも大きな障壁画などの仕事になると、そのモチーフを決めてから準備のスケッチに出る場合が多いから、既に頭の中に描いている構想に従って参考になる場所を探していることにはなる。しかし、このような場合でも、心から感動するような情景に巡り合うということは、

偶然の仕合せであって、望んで得られるものではない。やはり、全てを棄てて、純粹で、自由な精神状態になっているほうが、巡り合いの大切な瞬間を掴み易いのではないだろうか。

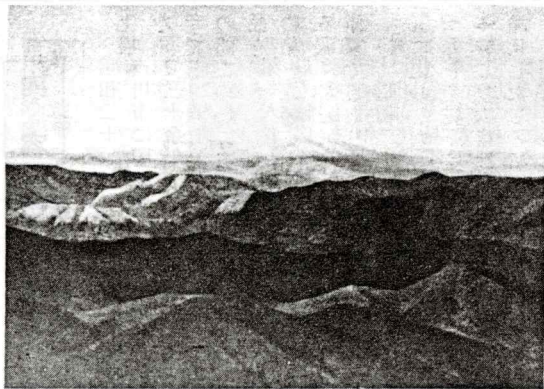
自分の頭の中に浮んだ構想は、そのままでは漠然としたものである。また、心に湧き出る想念の象徴としての風景も、自然の生命感を掴んだ上でなければ、確かな表現となつて画面に定着させることは望めない。作品の生れる過程は複雑なものがある。

私は千葉県の風景によって描いた作品が数点あるが、その中で初期の「残照」と共に重要な意義を持つているのは「晩照」である。これは、「残照」を描いてから七年後の昭和二十九年の作品で、浜金谷の海岸から見た鋸山がモデルになっている。「残照」の場合もそうであったが、この「晩照」も実際とはよほど違

いままで、なんと多くの旅をして来たことだろう。そして、これからも、ずっと続けることだろう。

随想「風景との対話」の第一章を、私はこのような言葉で書き初めた。それは、もう十年ほど前のことである。も

つた情景になっている。
頂上に岩壁の連る鋸山の風景は、むしろ横長の画面に適している。私は町から少し登ったところから、そんな構図のスケッチを幾枚もした。しかし、海岸から海を入れて、豎長の構図に納めるほうが、山が高く感じられると思って一枚のスケッチをした。それには浜辺の家並みも漁船も描き入れてあって、木々の茂る山肌は緑系統の色彩で塗った。しかし、次第に陽が西に傾き、夕陽を浴びた鋸山を前にしているうちに、突然、全く

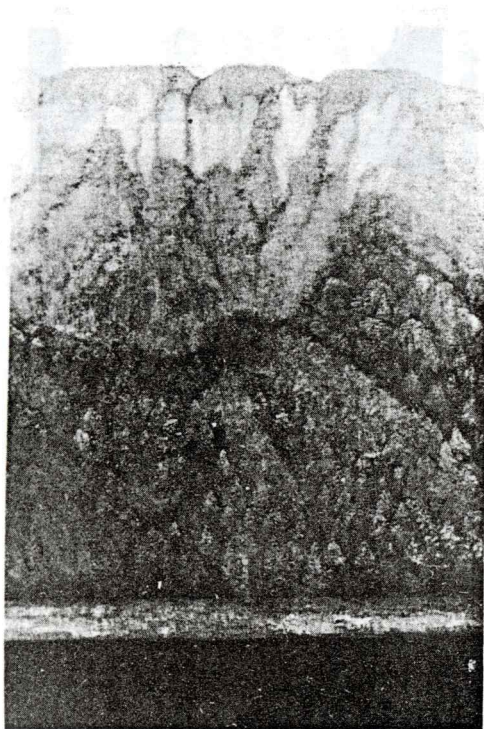


「残照」

違った景観が浮んだ。
浜辺の家並みも漁船も消え去り、波の音も聞こえなくなった。私は深い山の中の、暗い湖をひかえて聳え立つ岩山を仰いでいた。空は金色に輝き山頂の岩壁は夕陽の残映で赤く彩られている。山裾から這い上る夕影は、間もなく山全体を蔽うだろう。静寂荘厳なこのひととき――

私はこの情景を豎長の画面の上下に空の金色と湖の黒を細くとり入れ、大部分を赤褐色の山で埋め尽した構図にした。色彩も実際とはすっかり違ったものになっている。それをその年の毎日新聞社主催の第一回現代展への出品画として制作することにした。このように実景とはかなり変わっていても、やはり制作となるとスケッチだけでは不足で、大下図を現場へ持ってゆき綿密に細部を描き入れた。
仕上った画面は、こまかい部分の変化を描いた上から全体に岩絵の具をかけて消し、大きな調子にまとめるのだが、それには細部が充実していな

ければ重厚さが出て来ない。このような手法を私はその時以来、ずっと続けているのである。
この作品は仕上げ近くなっ
て思うように進まなくなり、
出品の前夜も徹夜で描いていたのだが、遂に出品をあきらめて一時間ばかり眠った。ふと眼が覚めると夜が明けかかっていた。作品を見ると、どこか取り柄があるようにも見える。起き上って再び絵筆をとっているうちに、すっかり朝になって運送屋がやって来た。どうしようかと迷いながら出品したものである。
この作品は思いがけなくそ



の展覧会で受賞して、私の代表作の一つに数えられている。こんど千葉県立美術館で開かれる私の作品展にも出陳されるが、私にとって思い出深い作品である。

制作をしていて感じることは、いつも完成が近づくにつれて冷静さが失われ自分の作品の判断がつかなくなり易いという点である。また、何十年描いていても、一作、一作で違うものであるから、なかなか思うように仕上ってこないものである。

この作品の場合も「残照」と比べると、粗い岩絵の具を使っている点や、強い色調で

あることなど、多くの違った点がある。この後に「樹根」や「光昏」というような私の作品の系列の中では、かなり強い調子の作品が続くことになる。

「残照」と「晩照」は共に実景を前にして、その上に二重写しのように心象のイメージが重なって出来たものである。「道」や「光昏」は、制作した時よりはずっと以前のスケッチを見ているうちにその風景が変容して浮んだイメージによるものである。

皇居宮殿壁画「朝明けの潮」や、唐招提寺の障壁画は、部屋の構造や壁面を考えて構成したものであるが、やはり旅による実景の多くのスケッチが土台になっている。

「晩照」

この稿は千葉県ゆかりの深い作品の「晩照」を中心に、旅での自然との巡り合いと作者の心を通過し変容して、作品として生れ出る過程に触れようと試みたものである。

東山魁夷展の全貌

— 初の開館時間延長 —

内 容 紹 介

昭和二十一年、東山魁夷氏が市川市に居を移してから今年で三十余年になります。その間の地にあって数々の作品を発表しつづけ、日本画壇の第一人者として活躍し、現在最も幅広く親しまれている作家でもあります。

特に昭和二十二年第三回日展に出品した「残照」は、十九谷を見下す鹿野山山頂で体験した大自然との交感を作品化したもので、この作品により画壇にみとめられ、風景

画家としての東山芸術が高く評価されるきっかけをなしたものでした。

東京芸術学校在学中より帝展に出品し、初入選をとげるなど早くからその才能を現わし、将来を嘱望されていました。卒業後、ドイツを中心とした渡欧留学は、ヨーロッパ芸術の写実に深い感銘をうけ、新しい日本画への意欲をかりたてられるものでした。それから約十年、模索を繰り返し、ついに「残照」へと結実させたのです。

東山魁夷氏の描く風景は、日本人の心の中にある自然を反映しているともいわれています。詩情豊かな色彩と知的



「森装う」



「リーベの家」

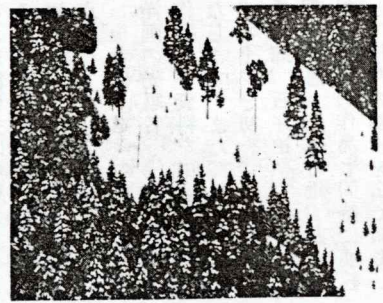
で斬新な構成を土台に、ひたすら描く対象の本質を追求しつづける画面は、特定の山や湖というものを超えて、人々を共鳴せしめる魅力の一つでもあります。

現在制作中の唐招提寺障壁画は「残照」を基点として徐々に広まり深められ、いよいよ高い円熟境を示しています。三月四日から開催される「東山魁夷展」は、そのサブタイトルが示すように、東山芸術を誕生させた「残照」から最近の仕事である唐招提寺障壁画の「山雲・濤声」に至る道程を紹介し、東山芸術の良さを十分に味わっていただくこととするものです。

そこで、主な展示作品を紹介

東山魁夷略年譜

- 明治41年(歳) 7月8日横浜に生まれる。本名新吉
- 大正15 (18) 東京美術学校日本画科に入學。
- 昭和6 (23) 同科を卒業。雅号を「魁夷」とする。
- 8 (25) 同校研究科修了。8月ドイツを主に欧州へ留学。ヨーロッパ美術史を研究。
- 15 (32) 川崎小虎の長女すみと結婚。
- 21 (38) 市川市鬼越で間借り生活をしながら制作する。
- 22 (39) 第3回日展で「残照」が特選、政府買上げになる。
- 35 (52) 東京御所壁画「日月四季圖」制作。
- 40 (57) 日本芸術院会員に任命される。
- 43 (60) 皇居新宮殿壁画「朝明けの潮」を完成。「朝明けの潮下図展」と「京洛四季展」を東京他4カ所で開く。
- 44 (61) 毎日芸術大賞を受賞。日展常務理事となる。ドイツ、オーストリアを写生旅行。文化勲章受章。文化功労者となる。
- 46 (63) 「古都を描く」「窓」の連作展と戦後の67点による展覧会を東京、神戸など5カ所で開催。
- 48 (65) 唐招提寺障壁画の制作準備のため各地を写生旅行岡山など6県で東山魁夷展を巡回展覧。白い馬の見える風景」の連作展開催。
- 50 (67) 唐招提寺障壁画「山雲・濤声」を完成。
- 51 (68) 日本文化界代表の一員として中国を訪問。ドイツ連邦共和国大功労十字勲章を受章。
- 52 (69) 大丸神戸店で「東山魁夷五十年の歩み展」開催。日仏文化協定による唐招提寺展がバリのプチ・パレで開催され、障壁画「山雲・濤声」も展示。中国の対外友好協会の招待で再び訪中。
- 53 (70) 渋谷・東急百貨店本店で「東山魁夷展」開催。茨谷・千葉県立美術館で「東山魁夷展」開催。



「春雪」

介しますと、前述の「残照」を初め、浜金谷からみた鋸山をモチーフとした「晩照」や「青宵」、北欧風景画の連作の中から「森のささやき」「リーベの家」「スオミ」、京都の四季をみつめる京洛四季シリーズの「年経る樹」「秋寂び」「雪の後」、そしてドイツ・オーストリアに取材した古都を描く連作の「明けゆく山湖」「夕べの聖堂」「窓」、さらに白い馬の見える風景の「若葉の季節」「白馬の森」「森装う」などシリーズの中から作品と、日展出品作の「春雪」「夕静寂」「桂林月夜」など約六十点で、これらの作品の中には、今までの東山魁夷展や画集に発表されなかった作品も含まれています。

また、これらの作品展示の他に資料室を設けています。ここには、作品展示室に出品されている以外の日展出品作を中心に、これまで展示されることになった小下図二十一点と、唐招提寺障壁画の「山雲・濤声」の完成に至る制作過程を「試作」小下図、1/2の中下図、割出図、大下図、完成写真」によって紹介し、併せて日本画の制作過程を知る上での参考になればと思っています。

さらに、東山魁夷氏は画家としては珍しく多くの著書をもっています。その著書のすべては作者自身を語ったものばかりですので、著作コーナーを設けました。

なお、会期中の毎金曜日は夜の七時まで開館しますのでどうぞご利用ください。



唐招提寺障壁画「山雲」部分

会期・入場料等

会期 3月4日(土)～3月31日
(金) 午前9時～午後4時30分、月曜日は休館
※会期中の金曜日に限り午後7時まで開館

入場料 大人三〇〇円(二〇〇円)、大・高生二〇〇円(一〇〇円)、中・小生一〇〇円(五〇円) (一)内は二〇名以上の団体料金
学校団体料金 高校生徒五〇円、小・中学校児童生徒三〇円(学校教育の一環として教師が引率の場合)

交通案内

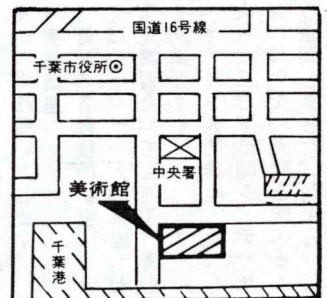
国鉄千葉駅前バス停③④番より「千葉市役所行」小湊、京成、中央各バスで終点下車、徒歩10分。⑦番「新港行」小湊、京成バスで中央署前下車、徒歩約6分。

※日曜・祝日は左記のとおり直通バスが運行されます。

千葉駅発・そのうデパート前	美術館発・玄關北側
9:40	9:55
10:10	10:25
10:40	11:00
11:15	11:25
12:40	12:55
13:10	13:25
13:40	14:20
14:35	14:50
15:05	15:30
15:45	16:00

美術講演会

特別展に伴い美術講演会を次のとおり開催します。
演題 「美との巡りあい」
講師 東山魁夷氏
日時 3月18日(土) 午後2時より 無料



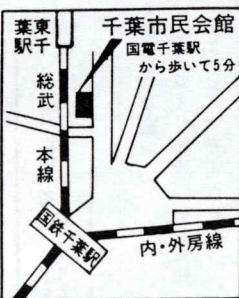
映画会

東山魁夷氏の代表的作品である「夕静寂」、「唐招提寺障壁画」の制作過程などを記録した映画を展覧会期間中、次のとおり上映します。

「夕静寂を描く」 3月4日「唐招提寺障壁画」 3月25日
いずれも午後2時より
場所は本館管理棟二階の写真スタジオです。入場無料。
上映時間は、二本とも約二十分の予定です。

美術を語る会

五十二年度より開催の「美術を語る会」は好評のうちに回を重ね、第六回は特別展を記念して東山魁夷の芸術について、筑波大学教授・美術評論家、そして本館の美術館資料評価委員会の委員である桑原住雄氏を講師に次のとおり開催します。多数お誘いあわせの上、御参加ください。
演題 「東山魁夷の人と芸術」
講師 桑原住雄(筑波大教授)
日時 3月11日(土)午後2時より 入場無料
会場 本館美術普及室 (参加自由)



本館企画の展覧会案内

常設展(二期)

4月6日～9月17日

本年度は二期に分けて開催します。第一期は、四月六日(休)から九月十七日(日)まで「三人の版画家、瑛九・浜口陽三・池田満寿夫の世界」と「浅井忠と周辺」をあわせて行ないます。前者は、特に版画を取り上げ、現代版画に大きな影響を与えた瑛九、日本の代表的版画家として、国際舞台で活躍中の、本県ゆかりの浜口陽三、そして若手人気作家の池田満寿夫に焦点をあて、それぞれ独自の美の世界を展覧します。出品点数は約五〇点。

後者は、本県の生んだ近代洋画の先駆者、浅井忠の収蔵作品及び資料を中心に展示いたします。また、師のフォンタネージを初め、弟子の黒田重太郎、石井柏亭、霜鳥之彦、都鳥英喜、間部時雄、友人の松岡寿等の作品も同時に展覧し、浅井の功績を広く顕彰し

たいと思います。出品点数は約六〇点。(含資料)

なお、四月二十四日(月)から五月三十一日(休)までは特別展「黒田清輝展」の開催準備等のため浅井忠の作品、資料の一部を除き、展示しません。特別展終了後、六月一日(休)から再び展覧の予定です。

特別展

黒田清輝展

4月27日～5月28日

黒田清輝は、浅井忠とともに日本近代洋画の先駆者であり、近代洋画の進展に画期的な役割をはたし、その功績は高く評価されています。

一昨年、特別展として「浅井忠とその師弟展」を行い好評を得ました。このたび東京国立文化財研究所の御協力により「黒田清輝展」を開催します。

黒田は、慶応二年(一八六六)鹿児島に生まれ、はじめ法律を志しフランスに留学しますが、途中で絵画に転じ、外光派の画家ラファエル・コランについて西洋画の基礎を

学びました。黒田の絵は、印象派風の明るい画風であったため帰国後、浅井を代表とする「やに派」に対して「紫派」と呼ばれ、当時唯一の洋画団体「明治美術会」に対し、久米桂一郎らと「白馬会」を結成。同会からは藤島武二・青木繁などが輩出しました。

今回の展覧会では、東京国立文化財研究所黒田記念室の中から初期木炭デッサンや名作「湖畔」「もるる日影」「昼寝」など約六〇点を出品します。特に「昔語り」の制作過程を示すデッサンから習作までの一連の作品は巨匠の軌跡を知る上で興味深い作品です。



黒田清輝「花野」

新年度の各種講座あんない

■美術普及室

前年度より新設の美術普及室を、さらに充実させるために、特別展、及び県展開催期間以外は第六室を普及室として、美術図書の充実、浅井忠関係資料の展示、各地で開催の展覧会情報の提供など、さらに各種講座の案内等も用意しますので、どうぞ御利用ください。

■夏季大学

「七宝焼講習会」は十二月二・三日の二日間開催し、趣味と実益を兼ねた、楽しい講習会にする予定です。

■美術を語る会

「てん刻入門講座」は二月十七・十八日に開きます。

美術一般に関する問題を取りあげ、語り合うことでより幅広く深い理解が得られるよう、五月より隔月に開催します。期日は、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{5}$ 、 $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{7}$ 、 $\frac{1}{8}$ 、 $\frac{1}{9}$ 、 $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{11}$ 、 $\frac{1}{12}$ 、 $\frac{1}{13}$ 、 $\frac{1}{14}$ 、 $\frac{1}{15}$ 、 $\frac{1}{16}$ 、 $\frac{1}{17}$ 、 $\frac{1}{18}$ 、 $\frac{1}{19}$ 、 $\frac{1}{20}$ 、 $\frac{1}{21}$ 、 $\frac{1}{22}$ 、 $\frac{1}{23}$ 、 $\frac{1}{24}$ 、 $\frac{1}{25}$ 、 $\frac{1}{26}$ 、 $\frac{1}{27}$ 、 $\frac{1}{28}$ 、 $\frac{1}{29}$ 、 $\frac{1}{30}$ 、 $\frac{1}{31}$ 、 $\frac{1}{32}$ 、 $\frac{1}{33}$ 、 $\frac{1}{34}$ 、 $\frac{1}{35}$ 、 $\frac{1}{36}$ 、 $\frac{1}{37}$ 、 $\frac{1}{38}$ 、 $\frac{1}{39}$ 、 $\frac{1}{40}$ 、 $\frac{1}{41}$ 、 $\frac{1}{42}$ 、 $\frac{1}{43}$ 、 $\frac{1}{44}$ 、 $\frac{1}{45}$ 、 $\frac{1}{46}$ 、 $\frac{1}{47}$ 、 $\frac{1}{48}$ 、 $\frac{1}{49}$ 、 $\frac{1}{50}$ 、 $\frac{1}{51}$ 、 $\frac{1}{52}$ 、 $\frac{1}{53}$ 、 $\frac{1}{54}$ 、 $\frac{1}{55}$ 、 $\frac{1}{56}$ 、 $\frac{1}{57}$ 、 $\frac{1}{58}$ 、 $\frac{1}{59}$ 、 $\frac{1}{60}$ 、 $\frac{1}{61}$ 、 $\frac{1}{62}$ 、 $\frac{1}{63}$ 、 $\frac{1}{64}$ 、 $\frac{1}{65}$ 、 $\frac{1}{66}$ 、 $\frac{1}{67}$ 、 $\frac{1}{68}$ 、 $\frac{1}{69}$ 、 $\frac{1}{70}$ 、 $\frac{1}{71}$ 、 $\frac{1}{72}$ 、 $\frac{1}{73}$ 、 $\frac{1}{74}$ 、 $\frac{1}{75}$ 、 $\frac{1}{76}$ 、 $\frac{1}{77}$ 、 $\frac{1}{78}$ 、 $\frac{1}{79}$ 、 $\frac{1}{80}$ 、 $\frac{1}{81}$ 、 $\frac{1}{82}$ 、 $\frac{1}{83}$ 、 $\frac{1}{84}$ 、 $\frac{1}{85}$ 、 $\frac{1}{86}$ 、 $\frac{1}{87}$ 、 $\frac{1}{88}$ 、 $\frac{1}{89}$ 、 $\frac{1}{90}$ 、 $\frac{1}{91}$ 、 $\frac{1}{92}$ 、 $\frac{1}{93}$ 、 $\frac{1}{94}$ 、 $\frac{1}{95}$ 、 $\frac{1}{96}$ 、 $\frac{1}{97}$ 、 $\frac{1}{98}$ 、 $\frac{1}{99}$ 、 $\frac{1}{100}$ 、 $\frac{1}{101}$ 、 $\frac{1}{102}$ 、 $\frac{1}{103}$ 、 $\frac{1}{104}$ 、 $\frac{1}{105}$ 、 $\frac{1}{106}$ 、 $\frac{1}{107}$ 、 $\frac{1}{108}$ 、 $\frac{1}{109}$ 、 $\frac{1}{110}$ 、 $\frac{1}{111}$ 、 $\frac{1}{112}$ 、 $\frac{1}{113}$ 、 $\frac{1}{114}$ 、 $\frac{1}{115}$ 、 $\frac{1}{116}$ 、 $\frac{1}{117}$ 、 $\frac{1}{118}$ 、 $\frac{1}{119}$ 、 $\frac{1}{120}$ 、 $\frac{1}{121}$ 、 $\frac{1}{122}$ 、 $\frac{1}{123}$ 、 $\frac{1}{124}$ 、 $\frac{1}{125}$ 、 $\frac{1}{126}$ 、 $\frac{1}{127}$ 、 $\frac{1}{128}$ 、 $\frac{1}{129}$ 、 $\frac{1}{130}$ 、 $\frac{1}{131}$ 、 $\frac{1}{132}$ 、 $\frac{1}{133}$ 、 $\frac{1}{134}$ 、 $\frac{1}{135}$ 、 $\frac{1}{136}$ 、 $\frac{1}{137}$ 、 $\frac{1}{138}$ 、 $\frac{1}{139}$ 、 $\frac{1}{140}$ 、 $\frac{1}{141}$ 、 $\frac{1}{142}$ 、 $\frac{1}{143}$ 、 $\frac{1}{144}$ 、 $\frac{1}{145}$ 、 $\frac{1}{146}$ 、 $\frac{1}{147}$ 、 $\frac{1}{148}$ 、 $\frac{1}{149}$ 、 $\frac{1}{150}$ 、 $\frac{1}{151}$ 、 $\frac{1}{152}$ 、 $\frac{1}{153}$ 、 $\frac{1}{154}$ 、 $\frac{1}{155}$ 、 $\frac{1}{156}$ 、 $\frac{1}{157}$ 、 $\frac{1}{158}$ 、 $\frac{1}{159}$ 、 $\frac{1}{160}$ 、 $\frac{1}{161}$ 、 $\frac{1}{162}$ 、 $\frac{1}{163}$ 、 $\frac{1}{164}$ 、 $\frac{1}{165}$ 、 $\frac{1}{166}$ 、 $\frac{1}{167}$ 、 $\frac{1}{168}$ 、 $\frac{1}{169}$ 、 $\frac{1}{170}$ 、 $\frac{1}{171}$ 、 $\frac{1}{172}$ 、 $\frac{1}{173}$ 、 $\frac{1}{174}$ 、 $\frac{1}{175}$ 、 $\frac{1}{176}$ 、 $\frac{1}{177}$ 、 $\frac{1}{178}$ 、 $\frac{1}{179}$ 、 $\frac{1}{180}$ 、 $\frac{1}{181}$ 、 $\frac{1}{182}$ 、 $\frac{1}{183}$ 、 $\frac{1}{184}$ 、 $\frac{1}{185}$ 、 $\frac{1}{186}$ 、 $\frac{1}{187}$ 、 $\frac{1}{188}$ 、 $\frac{1}{189}$ 、 $\frac{1}{190}$ 、 $\frac{1}{191}$ 、 $\frac{1}{192}$ 、 $\frac{1}{193}$ 、 $\frac{1}{194}$ 、 $\frac{1}{195}$ 、 $\frac{1}{196}$ 、 $\frac{1}{197}$ 、 $\frac{1}{198}$ 、 $\frac{1}{199}$ 、 $\frac{1}{200}$ 、 $\frac{1}{201}$ 、 $\frac{1}{202}$ 、 $\frac{1}{203}$ 、 $\frac{1}{204}$ 、 $\frac{1}{205}$ 、 $\frac{1}{206}$ 、 $\frac{1}{207}$ 、 $\frac{1}{208}$ 、 $\frac{1}{209}$ 、 $\frac{1}{210}$ 、 $\frac{1}{211}$ 、 $\frac{1}{212}$ 、 $\frac{1}{213}$ 、 $\frac{1}{214}$ 、 $\frac{1}{215}$ 、 $\frac{1}{216}$ 、 $\frac{1}{217}$ 、 $\frac{1}{218}$ 、 $\frac{1}{219}$ 、 $\frac{1}{220}$ 、 $\frac{1}{221}$ 、 $\frac{1}{222}$ 、 $\frac{1}{223}$ 、 $\frac{1}{224}$ 、 $\frac{1}{225}$ 、 $\frac{1}{226}$ 、 $\frac{1}{227}$ 、 $\frac{1}{228}$ 、 $\frac{1}{229}$ 、 $\frac{1}{230}$ 、 $\frac{1}{231}$ 、 $\frac{1}{232}$ 、 $\frac{1}{233}$ 、 $\frac{1}{234}$ 、 $\frac{1}{235}$ 、 $\frac{1}{236}$ 、 $\frac{1}{237}$ 、 $\frac{1}{238}$ 、 $\frac{1}{239}$ 、 $\frac{1}{240}$ 、 $\frac{1}{241}$ 、 $\frac{1}{242}$ 、 $\frac{1}{243}$ 、 $\frac{1}{244}$ 、 $\frac{1}{245}$ 、 $\frac{1}{246}$ 、 $\frac{1}{247}$ 、 $\frac{1}{248}$ 、 $\frac{1}{249}$ 、 $\frac{1}{250}$ 、 $\frac{1}{251}$ 、 $\frac{1}{252}$ 、 $\frac{1}{253}$ 、 $\frac{1}{254}$ 、 $\frac{1}{255}$ 、 $\frac{1}{256}$ 、 $\frac{1}{257}$ 、 $\frac{1}{258}$ 、 $\frac{1}{259}$ 、 $\frac{1}{260}$ 、 $\frac{1}{261}$ 、 $\frac{1}{262}$ 、 $\frac{1}{263}$ 、 $\frac{1}{264}$ 、 $\frac{1}{265}$ 、 $\frac{1}{266}$ 、 $\frac{1}{267}$ 、 $\frac{1}{268}$ 、 $\frac{1}{269}$ 、 $\frac{1}{270}$ 、 $\frac{1}{271}$ 、 $\frac{1}{272}$ 、 $\frac{1}{273}$ 、 $\frac{1}{274}$ 、 $\frac{1}{275}$ 、 $\frac{1}{276}$ 、 $\frac{1}{277}$ 、 $\frac{1}{278}$ 、 $\frac{1}{279}$ 、 $\frac{1}{280}$ 、 $\frac{1}{281}$ 、 $\frac{1}{282}$ 、 $\frac{1}{283}$ 、 $\frac{1}{284}$ 、 $\frac{1}{285}$ 、 $\frac{1}{286}$ 、 $\frac{1}{287}$ 、 $\frac{1}{288}$ 、 $\frac{1}{289}$ 、 $\frac{1}{290}$ 、 $\frac{1}{291}$ 、 $\frac{1}{292}$ 、 $\frac{1}{293}$ 、 $\frac{1}{294}$ 、 $\frac{1}{295}$ 、 $\frac{1}{296}$ 、 $\frac{1}{297}$ 、 $\frac{1}{298}$ 、 $\frac{1}{299}$ 、 $\frac{1}{300}$ 、 $\frac{1}{301}$ 、 $\frac{1}{302}$ 、 $\frac{1}{303}$ 、 $\frac{1}{304}$ 、 $\frac{1}{305}$ 、 $\frac{1}{306}$ 、 $\frac{1}{307}$ 、 $\frac{1}{308}$ 、 $\frac{1}{309}$ 、 $\frac{1}{310}$ 、 $\frac{1}{311}$ 、 $\frac{1}{312}$ 、 $\frac{1}{313}$ 、 $\frac{1}{314}$ 、 $\frac{1}{315}$ 、 $\frac{1}{316}$ 、 $\frac{1}{317}$ 、 $\frac{1}{318}$ 、 $\frac{1}{319}$ 、 $\frac{1}{320}$ 、 $\frac{1}{321}$ 、 $\frac{1}{322}$ 、 $\frac{1}{323}$ 、 $\frac{1}{324}$ 、 $\frac{1}{325}$ 、 $\frac{1}{326}$ 、 $\frac{1}{327}$ 、 $\frac{1}{328}$ 、 $\frac{1}{329}$ 、 $\frac{1}{330}$ 、 $\frac{1}{331}$ 、 $\frac{1}{332}$ 、 $\frac{1}{333}$ 、 $\frac{1}{334}$ 、 $\frac{1}{335}$ 、 $\frac{1}{336}$ 、 $\frac{1}{337}$ 、 $\frac{1}{338}$ 、 $\frac{1}{339}$ 、 $\frac{1}{340}$ 、 $\frac{1}{341}$ 、 $\frac{1}{342}$ 、 $\frac{1}{343}$ 、 $\frac{1}{344}$ 、 $\frac{1}{345}$ 、 $\frac{1}{346}$ 、 $\frac{1}{347}$ 、 $\frac{1}{348}$ 、 $\frac{1}{349}$ 、 $\frac{1}{350}$ 、 $\frac{1}{351}$ 、 $\frac{1}{352}$ 、 $\frac{1}{353}$ 、 $\frac{1}{354}$ 、 $\frac{1}{355}$ 、 $\frac{1}{356}$ 、 $\frac{1}{357}$ 、 $\frac{1}{358}$ 、 $\frac{1}{359}$ 、 $\frac{1}{360}$ 、 $\frac{1}{361}$ 、 $\frac{1}{362}$ 、 $\frac{1}{363}$ 、 $\frac{1}{364}$ 、 $\frac{1}{365}$ 、 $\frac{1}{366}$ 、 $\frac{1}{367}$ 、 $\frac{1}{368}$ 、 $\frac{1}{369}$ 、 $\frac{1}{370}$ 、 $\frac{1}{371}$ 、 $\frac{1}{372}$ 、 $\frac{1}{373}$ 、 $\frac{1}{374}$ 、 $\frac{1}{375}$ 、 $\frac{1}{376}$ 、 $\frac{1}{377}$ 、 $\frac{1}{378}$ 、 $\frac{1}{379}$ 、 $\frac{1}{380}$ 、 $\frac{1}{381}$ 、 $\frac{1}{382}$ 、 $\frac{1}{383}$ 、 $\frac{1}{384}$ 、 $\frac{1}{385}$ 、 $\frac{1}{386}$ 、 $\frac{1}{387}$ 、 $\frac{1}{388}$ 、 $\frac{1}{389}$ 、 $\frac{1}{390}$ 、 $\frac{1}{391}$ 、 $\frac{1}{392}$ 、 $\frac{1}{393}$ 、 $\frac{1}{394}$ 、 $\frac{1}{395}$ 、 $\frac{1}{396}$ 、 $\frac{1}{397}$ 、 $\frac{1}{398}$ 、 $\frac{1}{399}$ 、 $\frac{1}{400}$ 、 $\frac{1}{401}$ 、 $\frac{1}{402}$ 、 $\frac{1}{403}$ 、 $\frac{1}{404}$ 、 $\frac{1}{405}$ 、 $\frac{1}{406}$ 、 $\frac{1}{407}$ 、 $\frac{1}{408}$ 、 $\frac{1}{409}$ 、 $\frac{1}{410}$ 、 $\frac{1}{411}$ 、 $\frac{1}{412}$ 、 $\frac{1}{413}$ 、 $\frac{1}{414}$ 、 $\frac{1}{415}$ 、 $\frac{1}{416}$ 、 $\frac{1}{417}$ 、 $\frac{1}{418}$ 、 $\frac{1}{419}$ 、 $\frac{1}{420}$ 、 $\frac{1}{421}$ 、 $\frac{1}{422}$ 、 $\frac{1}{423}$ 、 $\frac{1}{424}$ 、 $\frac{1}{425}$ 、 $\frac{1}{426}$ 、 $\frac{1}{427}$ 、 $\frac{1}{428}$ 、 $\frac{1}{429}$ 、 $\frac{1}{430}$ 、 $\frac{1}{431}$ 、 $\frac{1}{432}$ 、 $\frac{1}{433}$ 、 $\frac{1}{434}$ 、 $\frac{1}{435}$ 、 $\frac{1}{436}$ 、 $\frac{1}{437}$ 、 $\frac{1}{438}$ 、 $\frac{1}{439}$ 、 $\frac{1}{440}$ 、 $\frac{1}{441}$ 、 $\frac{1}{442}$ 、 $\frac{1}{443}$ 、 $\frac{1}{444}$ 、 $\frac{1}{445}$ 、 $\frac{1}{446}$ 、 $\frac{1}{447}$ 、 $\frac{1}{448}$ 、 $\frac{1}{449}$ 、 $\frac{1}{450}$ 、 $\frac{1}{451}$ 、 $\frac{1}{452}$ 、 $\frac{1}{453}$ 、 $\frac{1}{454}$ 、 $\frac{1}{455}$ 、 $\frac{1}{456}$ 、 $\frac{1}{457}$ 、 $\frac{1}{458}$ 、 $\frac{1}{459}$ 、 $\frac{1}{460}$ 、 $\frac{1}{461}$ 、 $\frac{1}{462}$ 、 $\frac{1}{463}$ 、 $\frac{1}{464}$ 、 $\frac{1}{465}$ 、 $\frac{1}{466}$ 、 $\frac{1}{467}$ 、 $\frac{1}{468}$ 、 $\frac{1}{469}$ 、 $\frac{1}{470}$ 、 $\frac{1}{471}$ 、 $\frac{1}{472}$ 、 $\frac{1}{473}$ 、 $\frac{1}{474}$ 、 $\frac{1}{475}$ 、 $\frac{1}{476}$ 、 $\frac{1}{477}$ 、 $\frac{1}{478}$ 、 $\frac{1}{479}$ 、 $\frac{1}{480}$ 、 $\frac{1}{481}$ 、 $\frac{1}{482}$ 、 $\frac{1}{483}$ 、 $\frac{1}{484}$ 、 $\frac{1}{485}$ 、 $\frac{1}{486}$ 、 $\frac{1}{487}$ 、 $\frac{1}{488}$ 、 $\frac{1}{489}$ 、 $\frac{1}{490}$ 、 $\frac{1}{491}$ 、 $\frac{1}{492}$ 、 $\frac{1}{493}$ 、 $\frac{1}{494}$ 、 $\frac{1}{495}$ 、 $\frac{1}{496}$ 、 $\frac{1}{497}$ 、 $\frac{1}{498}$ 、 $\frac{1}{499}$ 、 $\frac{1}{500}$ 、 $\frac{1}{501}$ 、 $\frac{1}{502}$ 、 $\frac{1}{503}$ 、 $\frac{1}{504}$ 、 $\frac{1}{505}$ 、 $\frac{1}{506}$ 、 $\frac{1}{507}$ 、 $\frac{1}{508}$ 、 $\frac{1}{509}$ 、 $\frac{1}{510}$ 、 $\frac{1}{511}$ 、 $\frac{1}{512}$ 、 $\frac{1}{513}$ 、 $\frac{1}{514}$ 、 $\frac{1}{515}$ 、 $\frac{1}{516}$ 、 $\frac{1}{517}$ 、 $\frac{1}{518}$ 、 $\frac{1}{519}$ 、 $\frac{1}{520}$ 、 $\frac{1}{521}$ 、 $\frac{1}{522}$ 、 $\frac{1}{523}$ 、 $\frac{1}{524}$ 、 $\frac{1}{525}$ 、 $\frac{1}{526}$ 、 $\frac{1}{527}$ 、 $\frac{1}{528}$ 、 $\frac{1}{529}$ 、 $\frac{1}{530}$ 、 $\frac{1}{531}$ 、 $\frac{1}{532}$ 、 $\frac{1}{533}$ 、 $\frac{1}{534}$ 、 $\frac{1}{535}$ 、 $\frac{1}{536}$ 、 $\frac{1}{537}$ 、 $\frac{1}{538}$ 、 $\frac{1}{539}$ 、 $\frac{1}{540}$ 、 $\frac{1}{541}$ 、 $\frac{1}{542}$ 、 $\frac{1}{543}$ 、 $\frac{1}{544}$ 、 $\frac{1}{545}$ 、 $\frac{1}{546}$ 、 $\frac{1}{547}$ 、 $\frac{1}{548}$ 、 $\frac{1}{549}$ 、 $\frac{1}{550}$ 、 $\frac{1}{551}$ 、 $\frac{1}{552}$ 、 $\frac{1}{553}$ 、 $\frac{1}{554}$ 、 $\frac{1}{555}$ 、 $\frac{1}{556}$ 、 $\frac{1}{557}$ 、 $\frac{1}{558}$ 、 $\frac{1}{559}$ 、 $\frac{1}{560}$ 、 $\frac{1}{561}$ 、 $\frac{1}{562}$ 、 $\frac{1}{563}$ 、 $\frac{1}{564}$ 、 $\frac{1}{565}$ 、 $\frac{1}{566}$ 、 $\frac{1}{567}$ 、 $\frac{1}{568}$ 、 $\frac{1}{569}$ 、 $\frac{1}{570}$ 、 $\frac{1}{571}$ 、 $\frac{1}{572}$ 、 $\frac{1}{573}$ 、 $\frac{1}{574}$ 、 $\frac{1}{575}$ 、 $\frac{1}{576}$ 、 $\frac{1}{577}$ 、 $\frac{1}{578}$ 、 $\frac{1}{579}$ 、 $\frac{1}{580}$ 、 $\frac{1}{581}$ 、 $\frac{1}{582}$ 、 $\frac{1}{583}$ 、 $\frac{1}{584}$ 、 $\frac{1}{585}$ 、 $\frac{1}{586}$ 、 $\frac{1}{587}$ 、 $\frac{1}{588}$ 、 $\frac{1}{589}$ 、 $\frac{1}{590}$ 、 $\frac{1}{591}$ 、 $\frac{1}{592}$ 、 $\frac{1}{593}$ 、 $\frac{1}{594}$ 、 $\frac{1}{595}$ 、 $\frac{1}{596}$ 、 $\frac{1}{597}$ 、 $\frac{1}{598}$ 、 $\frac{1}{599}$ 、 $\frac{1}{600}$ 、 $\frac{1}{601}$ 、 $\frac{1}{602}$ 、 $\frac{1}{603}$ 、 $\frac{1}{604}$ 、 $\frac{1}{605}$ 、 $\frac{1}{606}$ 、 $\frac{1}{607}$ 、 $\frac{1}{608}$ 、 $\frac{1}{609}$ 、 $\frac{1}{610}$ 、 $\frac{1}{611}$ 、 $\frac{1}{612}$ 、 $\frac{1}{613}$ 、 $\frac{1}{614}$ 、 $\frac{1}{615}$ 、 $\frac{1}{616}$ 、 $\frac{1}{617}$ 、 $\frac{1}{618}$ 、 $\frac{1}{619}$ 、 $\frac{1}{620}$ 、 $\frac{1}{621}$ 、 $\frac{1}{622}$ 、 $\frac{1}{623}$ 、 $\frac{1}{624}$ 、 $\frac{1}{625}$ 、 $\frac{1}{626}$ 、 $\frac{1}{627}$ 、 $\frac{1}{628}$ 、 $\frac{1}{629}$ 、 $\frac{1}{630}$ 、 $\frac{1}{631}$ 、 $\frac{1}{632}$ 、 $\frac{1}{633}$ 、 $\frac{1}{634}$ 、 $\frac{1}{635}$ 、 $\frac{1}{636}$ 、 $\frac{1}{637}$ 、 $\frac{1}{638}$ 、 $\frac{1}{639}$ 、 $\frac{1}{640}$ 、 $\frac{1}{641}$ 、 $\frac{1}{642}$ 、 $\frac{1}{643}$ 、 $\frac{1}{644}$ 、 $\frac{1}{645}$ 、 $\frac{1}{646}$ 、 $\frac{1}{647}$ 、 $\frac{1}{648}$ 、 $\frac{1}{649}$ 、 $\frac{1}{650}$ 、 $\frac{1}{651}$ 、 $\frac{1}{652}$ 、 $\frac{1}{653}$ 、 $\frac{1}{654}$ 、 $\frac{1}{655}$ 、 $\frac{1}{656}$ 、 $\frac{1}{657}$ 、 $\frac{1}{658}$ 、 $\frac{1}{659}$ 、 $\frac{1}{660}$ 、 $\frac{1}{661}$ 、 $\frac{1}{662}$ 、 $\frac{1}{663}$ 、 $\frac{1}{664}$ 、 $\frac{1}{665}$ 、 $\frac{1}{666}$ 、 $\frac{1}{667}$ 、 $\frac{1}{668}$ 、 $\frac{1}{669}$ 、 $\frac{1}{670}$ 、 $\frac{1}{671}$ 、 $\frac{1}{672}$ 、 $\frac{1}{673}$ 、 $\frac{1}{674}$ 、 $\frac{1}{675}$ 、 $\frac{1}{676}$ 、 $\frac{1}{677}$ 、 $\frac{1}{678}$ 、 $\frac{1}{679}$ 、 $\frac{1}{680}$ 、 $\frac{1}{681}$ 、 $\frac{1}{682}$ 、 $\frac{1}{683}$ 、 $\frac{1}{684}$ 、 $\frac{1}{685}$ 、 $\frac{1}{686}$ 、 $\frac{1}{687}$ 、 $\frac{1}{688}$ 、 $\frac{1}{689}$ 、 $\frac{1}{690}$ 、 $\frac{1}{691}$ 、 $\frac{1}{692}$ 、 $\frac{1}{693}$ 、 $\frac{1}{694}$ 、 $\frac{1}{695}$ 、 $\frac{1}{696}$ 、 $\frac{1}{697}$ 、 $\frac{1}{698}$ 、 $\frac{1}{699}$ 、 $\frac{1}{700}$ 、 $\frac{1}{701}$ 、 $\frac{1}{702}$ 、 $\frac{1}{703}$ 、 $\frac{1}{704}$ 、 $\frac{1}{705}$ 、 $\frac{1}{706}$ 、 $\frac{1}{707}$ 、 $\frac{1}{708}$ 、 $\frac{1}{709}$ 、 $\frac{1}{710}$ 、 $\frac{1}{711}$ 、 $\frac{1}{712}$ 、 $\frac{1}{713}$ 、 $\frac{1}{714}$ 、 $\frac{1}{715}$ 、 $\frac{1}{716}$ 、 $\frac{1}{717}$ 、 $\frac{1}{718}$ 、 $\frac{1}{719}$ 、 $\frac{1}{720}$ 、 $\frac{1}{721}$ 、 $\frac{1}{722}$ 、 $\frac{1}{723}$ 、 $\frac{1}{724}$ 、 $\frac{1}{725}$ 、 $\frac{1}{726}$ 、 $\frac{1}{727}$ 、 $\frac{1}{728}$ 、 $\frac{1}{729}$ 、 $\frac{1}{730}$ 、 $\frac{1}{731}$ 、 $\frac{1}{732}$ 、 $\frac{1}{733}$ 、 $\frac{1}{734}$ 、 $\frac{1}{735}$ 、 $\frac{1}{736}$ 、 $\frac{1}{737}$ 、 $\frac{1}{738}$ 、 $\frac{1}{739}$ 、 $\frac{1}{740}$ 、 $\frac{1}{741}$ 、 $\frac{1}{742}$ 、 $\frac{1}{743}$ 、 $\frac{1}{744}$ 、 $\frac{1}{745}$ 、 $\frac{1}{746}$ 、 $\frac{1}{747}$ 、 $\frac{1}{748}$ 、 $\frac{1}{749}$ 、 $\frac{1}{750}$ 、 $\frac{1}{751}$ 、 $\frac{1}{752}$ 、 $\frac{1}{753}$ 、 $\frac{1}{754}$ 、 $\frac{1}{755}$ 、 $\frac{1}{756}$ 、 $\frac{1}{757}$ 、 $\frac{1}{758}$ 、 $\frac{1}{759}$ 、 $\frac{1}{760}$ 、 $\frac{1}{761}$

トピックス

■うれしい寄贈
外構整備すむ

昨年十二月に美術館外構整備の第一歩として、駐車場の拡張、街灯の設置などの工事が完成しましたが、この外構整備に伴い、十一月一日、ライオンズクラブより、クリーン・ボックス五個、十一月五日には千葉県緑化推進委員会より月桂樹が植樹され、また、十二月二十四日、千葉南ロータリークラブより玉イブキの植樹が寄贈されるなど、各界より暖かい御支援をいただきました。本館の外構もこれらの寄贈により、一段と整備されること

■成果のあつた第五回美術を語る会

房総の美術家シリーズ7「菅谷元三郎・田城寺昇展」の会期中に開催した第五回美術を語る会は一月十四日に催され話題提供者として大須賀力氏、白井三郎氏をむかえ、約四十名の聴講者のなかには、菅谷元三郎の縁者や、田城寺昇の関係者など、多くの方々が出席され、興味深い語り合いがなされました。また白井三郎氏発行の「無縁寺心澄・菅谷元三郎」(限定五〇〇部)も紹介され、実り多い会でした。なお前記の図書は本館学芸課で閲覧できます。

■野外展示第三号完成する
—大須賀力「椅子の女」—

玄関わきに完成した木村賢太郎「立像」につづき、野外展示第三号として大須賀力「椅子の女」(一九七五)が管理棟中庭に設置されました。

大須賀力氏は、市川市在住の彫刻家で、日展で活躍、特選を重ね現在は日展評議員。千葉県文化功労者、千葉県美術会相談役。

千葉南ロータリークラブから
寄贈されたタマイブキ



大須賀力「椅子の女」



伝言板

●工事のため次の期間臨時休館となります。

2月18日(土)・26日(日)

●今回は東山魁夷特集号のため、新収蔵作品紹介、美の根などを省略させていただきました。紙面を変更しました。

●美術館友の会は三月より新年度の会員を募集します。詳細については、友の会事務局に問い合わせ願います。

●来年度より館報は発行回数をふやし、充実させる予定。

●館の展覧会や、その他講座等に関する御意見や、「談話コーナー」への投書を御寄せください。

●東山魁夷展の夜間開館(金曜日午後七時まで)を利用し、日本画の美をじっくり御覧ください。

談話コーナー

私にとって絵とは

村上十吉(船橋市)

数年前、まだ小学校低学年だった娘と近くの野道を歩いて団地までよく散歩をした。子供とスケッチブックにクレヨン画を描いたことがあった。いつか生活が落ちついたら油絵を習いたいなあと、それが強い願望となった。その頃のこと、今度展覧会の催される東山魁夷先生の本を読んで戦後の乏しい時代に、リックサックを背負い三時間近い山道を登り、九十九谷の写生に行かれた描写や、市川の借り家の二階の部屋で制作に打ちこまれた話が印象的で感激した。生活が楽になったと言って絵が書けるのではないだろうが、その後機会をえて油絵を習い始めた。しかし昨年来の不況で、職場に不幸な人を出すようなことになると、どうしても心が絵に入らない。私にとって絵の勉

強は手すさびに過ぎなかったと思いたくないけれど。

期待に胸ふくらませて

日暮幸子(千葉市)

三月(四日・三十一日)東山魁夷先生の絵がやって来る。まるで夢のような話である。日本の画壇の頂点におられる先生の展覧会が、一地方の美術館で開かれるなんて想像もし得なかったことである。

私にとって東山先生の絵との出会いは九十九谷を描かれた「残照」であった。うす紅色に染まる山なみの中に身も心も吸われて行く思いで私は絵の前に立ち尽していた。

その後、機会あるごとに先生の絵に接した。接するたび絵の中から作者の温かい眼指しが伝わって来て、さらに心をひかれて見た。

先生の絵のファンは非常に多い。何故引かれるのか私なりに考えて見た。つまり、そこに人間の求めている原点のようなものがあるのではないかと思う。

ヨーロッパの印象

大木学芸課長帰国

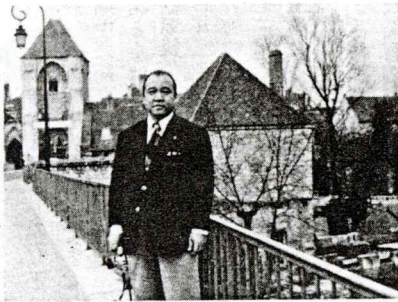
本館の大木学芸課長は文化庁の「地方文化指導者海外派遣」の一員として東南アジア・ヨーロッパ諸国の美術館・博物館及び文化財保護の現状を視察するため昨年十一月八日から三〇日まで各国を公式訪問しました。

訪問した国は、タイ、イタリア、スイス、イギリス、フランスの五ヶ国です。

各国の文部省、文化庁及び美術館、博物館などを訪問し、そのなかで、いちばん強く印象に残ったところは、イギリスの大英博物館、フランスのルーヴル美術館であり、大英博物館では、エジプト、アッシリア、バビロニアなど各国の各時代の文化を代表するものを、独特の展示法によって陳列してある事に関心をもち、また、ルーヴル美術館ではさまざまな名品に感動し、美術品の保護・研究などの活動に興味を持ったということです。

フランスでは八日間滞在し、その間、本館と銚子市にゆかりの深い、パリ在住の国際的版画家である浜口陽三氏を訪ねました。

浜口氏の出身地は和歌山県だが、小学校時代は銚子で過ごし、今年六十九歳の氏は、版画家としてサンパウロ・ビエンナーレ展やリユブリアナ国際版画展などでグランプリを受賞、ニュ



フランスにて

ーヨークの近代美術館や、ジュネーブの近代美術・歴史博物館など欧米の美術館に作品が収蔵され、本館でも多く収蔵しています。

モンパルナスにちかい、サン・ジャック通りにある浜口氏のアトリエで、氏は「私は十年前には気に入らなかった作品を、もう一度見直し、さらにアイデアを加えて制作しています。」と話されました。

作品のテーマとして、日常生活に親しみのある、サクラボ、クルミ、レモン、てんとう虫、などが多く、精細な線刻による作品は、綿密な計算と繊細な感覚が調和し、豊かな人間味を感じさせています。

大木課長は浜口氏の印象について「黒いヒゲと鋭い目は、版画家として制作に命をかける情念と、おのが芸術に対する厳しさを感じさせた。」と語っています。各国の諸施設を訪問し、「本館も地方美術館として特色を出すべきだ。」これが大木課長の結論でした。

団体展 (3月～5月)

- ▼習美会新春展 2・28～3・5 無料
- ▼千葉市民美術館 3・11～3・26 無料
- ▼書屋展教育部展 3・28～4・2 無料
- ▼書の友会展 4・11～4・16 無料
- ▼新芸術協会千葉支部展 4・18～4・23 無料
- ▼歩会彫刻展 4・25～5・7 無料
- ▼千葉工芸展 4・25～5・7 無料
- ▼千葉新協美術展 5・2～5・7 無料
- ▼千葉二科展 5・16～5・21 無料
- ▼墨の県展 5・23～5・28 無料
- ▼精鋭展 5・30～6・11 無料
- ▼千葉独立協会展 5・30～6・11 無料

綿引司郎氏(日展評議員)昭和五十二年十一月九日逝去、七十二歳。

氏は松戸市に在住され、帝展・文展・日展などで活躍された彫刻家で、特選2回、朝倉賞受賞、日展評議員を歴任。なお、氏の代表作のひとつである「遙」は石膏と漆による乾漆像で、本館所蔵。

日誌抄

(11月～53年1月)

29	24	20	14	5	1月	20	18	4	12月	21	12	11	9	8	6	5	3	2	1	11月
ライオンズクラブより クリンボックス、5 個寄贈される	第29回県展はじまる	千葉県移動美術館開く (於県立上総博物館)	千葉県緑化推進委員会 より樹木が寄贈される	洋画実技講座開く	大木学芸課長訪欧	沼田副知事県展を視察	川上知事、県展を視察	松井千葉市長来館する	美術を語る会開催	県文教常任委員、本館 を視察	千葉県移動美術館開く (於県立安房博物館)	山梨県立美術館建設準 備室より来館	菅谷元三郎・円城寺昇 展開く(1月25日まで)	白井三郎氏、円城寺宏 氏、企画展を観覧	美術を語る会開催	千葉南ロータリークラ ブより樹木寄贈される	加瀬完参議院副議長、 企画展を観覧に来館	第11回現代美術選抜展 開く(2月17日まで)		